

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽)  
／頃安 利秀

### ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

#### 1. 目標・計画

芸術系コース(音楽)の教員全員で申請してきた基盤C(一般)「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科教員養成カリキュラムの研究」がまだ採択されていないので、さらに改良を加え次年度の採択を目指す。

#### 2. 点検・評価

芸術系コース(音楽)で以前より申請してきた基盤C(一般)「学生たちの自己省察力の育成をめざした音楽科教員養成カリキュラムの研究」に改良を加え、研究分担者として申請を行った。

一方、同じく基盤C(一般)「教員を目指す学生の声を育てる授業の開発」というテーマで、他コースの教員二人(余郷教授、綿引教授)に研究分担者になってもらい、代表者として申請を行った。(過日、内定の通知をいただいた)

##### I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

#### 1. 目標・計画

これまで以上に大学における教育と研究に力を注ぎ、本コースや自分のゼミを受験しようとする者が増えるように努力する。

①研究成果を演奏会や講演等外部で発表するときに、大学院の案内等を配布する。

ただし自分のゼミの院生が多くなりつつあるので、十分な大学院教育ができる範囲の数に抑えたい。

#### 2. 点検・評価

「①研究成果を演奏会や講演等外部で発表するときに、大学院の案内等を配布する。」については、7月に行った自分の演奏会において、本学の大学院生募集用のパンフレットを配布し、大学院生定員充足のための広報活動を行った。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

教育支援に関する目標は、学生が自らの学習状況を省察し、それを改善していけるようなプログラムで授業を進めていくことを目標とする。そのために、次のようなことを計画する。

- ①授業において、学生が自らの演奏や表現活動を客観的に観察できるような工夫を考える。
- ②学生同士で互いの演奏を聴いて、意見交換や相互批評ができるような授業にしていく。

学生生活支援に関する目標は、担任する学生との懇談、また指導学生と個々に話をする機会をできるだけ多く設け、学生が自らそれぞれの目標に向かって進むことができるように支援する。

- ①必要に応じて学生との懇談を行い、学生が自らの目標意識を明確に持てるように支援する。
- ②合唱団タドポールの顧問として、学生への適切な指導を行う。

#### 2. 点検・評価

教育支援に関する「①授業において、学生が自らの演奏や表現活動を客観的に観察できるような工夫を考える。②学生同士で互いの演奏を聴いて、意見交換や相互批評ができるような授業にしていく」については、学生の演奏を録画することにより、自らの演奏表現活動を省察できるようにした。

学生生活支援に関しては、「①必要に応じて学生との懇談を行い、学生が自らの目標意識を明確に持てるように支援する。」については、学生の要望に応じて適宜面談を行った。また「②合唱団タドポールの顧問として、学生への適切な指導を行う。」については、合唱団の演奏活動がある大学祭や合唱祭の前に実技指導を行った。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

研究においては、これまで行ってきたドイツ・バロック期及びドイツ・ロマン派の声楽曲の実践的研究をさらに進める。またこれまで取り組む機会の少なかった日本歌曲の演奏にも力を注ぐ。これらに関連して朗読と歌う時の発声法の比較についても研究を進めていきたい。

- ①バッハのカンタータや受難曲の演奏実践研究を行う。
- ②ブラームスやヴォルフの声楽曲の演奏実践研究を行う。
- ③日本歌曲の演奏実践研究を行う。
- ④朗読と歌唱時における発声についての比較研究を行う。

#### 2. 点検・評価

「①バッハのカンタータや受難曲の演奏実践研究を行う。」に関して、松山市や神戸市、また広島市における演奏会において研究成果を演奏として発表した。

「②ブラームスやヴォルフの声楽曲の演奏実践研究を行う。③日本歌曲の演奏実践研究を行う。」に関して、徳島県相生森林美術館や鳴門市ドイツ館において、ブラームスと日本歌曲による演奏会を行い、研究成果を演奏実践として発表した。

「④朗読と歌唱時における発声についての比較研究を行う。」に関しては、広領域コア科目「教師の声とからだことば」の授業において、研究成果の検証を行った。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

各種委員会委員として、大学の将来を見据えたヴィジョンを持って、必要な役割を果たしていく。また「エコアクション21」に積極的に参加し、自然資源の無駄遣いをできるだけしないようにする。

### 2. 点検・評価

人権教育推進委員会委員では、人権教育講演会の担当者として任務を果たした。また「エコアクション21」に関しては、常に自然資源の無駄遣いをできるだけしないように努力した。その他、教員選考委員会委員として任務を果たした。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

公開講座の開催、教育支援講師・アドバイザー等派遣事業や地域における文化事業に積極的に参加する。  
①公開講座「楽しい歌唱教室」を通して、現職教員への声楽実技指導、また地域社会の音楽文化の発展に貢献する。  
②NPO法人鳴門第九を歌う会の理事及び合唱指導者として、地域社会の音楽文化の発展に貢献する。  
③演奏会や講演会等を通じて、地域社会の音楽文化の促進に貢献する。

### 2. 点検・評価

①公開講座「楽しい歌唱教室」を通して、現職教員への声楽実技指導、また地域社会の音楽文化の発展に貢献する。」に関して、現職教員や地域の人たちで定員を越す受講生があり、好評のうちに講座を開催できた。  
「②NPO法人鳴門第九を歌う会の理事及び合唱指導者として、地域社会の音楽文化の発展に貢献する。」に関しては、副理事長としてNPO法人の中核となって、演奏会や様々な行事の企画等を行った。  
「③演奏会や講演会等を通じて、地域社会の音楽文化の促進に貢献する。」に関しては、合計9回の演奏会に出演し、地域の音楽文化の促進に努力した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特別経費(プロジェクト分)「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」における教科内容学研究協議会委員として、小学校教科専門科目のテキスト作成にむけて努力した。また教科内容学に関して海外の動向を見るべく、ドイツのロイファナ大学やリューネブルク市の小学校を訪問し、教員との意見交換を行った。